

2007年ミニバスケットボール競技規則の主な変更点

- 1 まえがき
ミニバスケットボールにおける考え方について、これまで「まえがき」と「あとがき」に分けて表していたものを、「まえがき」に集約して表した。
より目を通しやすくすることを目的とし、その精神と内容には代わりはない。
- 2 名称の変更
「ミニ・バスケットボール」を「ミニバスケットボール」とした。
「スコアキーパー」を「スコアラー」、「アシスタント・スコアキーパー」を「アシスタント・スコアラー」と名称の変更をした。
「フリースロー・レーン」の表記をしない。
「チャージド・タイム・アウト」を「タイム・アウト」とした。
- 3 注解の表記
これまですべての条文の後に記述していた規則の注解を条文の後に記述した。
- 4 スコアシートの様式の変更
これまでの様式から、ランニング・スコアをチェックする一般競技用スコアシートに近い様式に変更した。
- 5 第4条 境界線とコート内のライン 他
「フリースロー・レーン」から「制限区域」と「フリースローを行う半円」という呼び方に変更した。
- 6 第8条 ゲーム器具
(9)として「ポゼションの表示器具(ポゼション・アロー)」についての記述を追加した。
- 7 第9条 審判
(7)を「必要なときに秒数を数える」とし、「黙って」を削除した。
5秒に関してレフェリーは、はっきりとジェスチャーしてカウントすることにした。
- 8 第11条 タイマー
ゲームの前半と後半の開始3分前に加えて1分前にも合図器具をならして審判と周囲に知らせることを書き加えた。
また、タイム・アウトなどの時間をはかるために操作する器具にストップ・ウォッチを加えた。
30秒オペレーターの合図がゲームを止めないことになったため、「次の瞬間にゲーム・クロックを止める。の(3)30秒の合図があったとき」を削除した。
- 9 第12条 30秒オペレーター
30秒はボールがシューターの手から離れ、バスケットに入るかリングに触れたときに終わることに変更した。このことによって、ショットされただけでは30秒をリセットしない。
また、30秒オペレーターの合図がゲームを止めることはなくなった。
- 10 第18条 ジャンプ・ボール
30秒の合図がゲームを止めなくなり、「ショットされたボールが空中にある間に30秒の合図が誤って鳴ってしまい、そのショットが成功しなかったとき」の規定を削除した。
- 11 第21条 同点と延長
「後半を終わったとき両チームの得点と同じならば引き分けとする」ことを明記した。
大会などにおいて延長時限を行う場合には、3分間の延長時限を必要回数行うことに変更した。
- 12 第23条 出場と交代
フリースローの前にタイム・アウトがあり、最後のフリースローが成功したときはフリースロー・シューターが交代できることにした。
- 13 第24条 タイム・アウト
フリースローが行われるときは、審判がフリースロー・シューターにボールを与える前であればタイム・アウトが認められることに変更した。
フリースロー・シューターを交代させたいときは、コーチはその旨をテーブル・オフィシャルズにはっきり申し出なければならない。
- 14 第36条 近接してディフェンスされたプレイヤー
「通常の1歩以内に近づいて」を「1mよりも近い位置で積極的に」に変更した。
- 15 第37条 30秒ルール
30秒以内にショットされたとき、ボールがリングに触れずに成功しない場合、30秒はリセットされないことに変更した。
- 16 第48条 チーム・ファウル
フリースローが与えられるチーム・ファウルの回数を、各ハーフ7回から各クォーター4回に変更し、5回目のパーソナル・ファウルからフリースローが与えられることに変更した。